



## 第27回 地域産学官と技術士との 合同セミナー

技術士（建設／総合技術監理部門） 岡田 包儀

### 1. はじめに

昨年11月2日、北見市において「第27回地域産学官と技術士との合同セミナー」が開催されたのでその概要を報告いたします。

近年、地球温暖化による災害が多発傾向にあり、北海道オホーツク地域においてもここ数年で豪雪、集中豪雨、竜巻など未曾有の自然災害に見舞われました。一方、2006年（平成18年）11月15日と2007年（平成19年）1月14日に相次ぎ千島列島沖地震に伴う津波警報が発令され、その際の低調な避難率について自治体の対応や地域住民意識等種々の問題点が指摘されました。今回のセミナーでは、まずオホーツク地域における近年の自然災害の特色を理解し、これらに対するハード・ソフト面での備えのうち、特に「災害に対する住民意識の向上を図るために為すべきことは何か」をテーマとしてそれぞれの立場から社会的・地域的・技術的課題を検討しました。併せて産学官としての調整役として技術士が果たすべき役割を明確にしようとする主旨のもとで開催されました。



セミナー受付風景

### 2. 合同セミナーの概要

日時：2007年（平成19年）11月2日（金）

14：00～17：30

会場：ホテルベルクラシック北見（北見市）

参加者総数：133名



会場風景

### プログラム

総合司会：(株)日本技術士会北海道支部

事務局次長 森隆広氏

開会のことば：(株)日本技術士会北海道支部

支部長 大島紀房氏

主催者挨拶：(株)日本技術士会 会長 高橋修氏

来賓挨拶：北海道開発局網走開発建設部

次長 伊藤丹氏

第1部 話題提供

(1) 「北見市大雪災害と現地対応」

北見工業大学 教授 高橋修平氏

(2) 「自治体の防災に対する備え」

北見市総務部防災対策・危機管理室

課長 岡森清貴氏

(3) 「災害時の救護について」

日本赤十字北海道看護大学  
准教授 尾山とし子氏

(4) 「千島列島沖地震時の津波避難に関する  
アンケート調査結果」

北海道開発局建設部道路計画課道路調査官  
柳原優登氏

第2部 パネルディスカッション

テーマ 「災害に対する住民意識の向上」

パネリスト 話題提供者：4名

コーディネータ 北見工業大学理事・副学長  
大島俊之氏

閉会挨拶：(社)日本技術士会北海道支部副支部長  
兼実行委員長 能登繁幸氏

3. 話題提供要旨

(1) 「北見市大雪災害と現地対応」高橋修平氏



高橋修平氏による話題提供

2004年(平成16年)1月に道東・オホーツク地方一帯に見舞われた豪雪災害(北見:積雪171cm)について概説した。この豪雪は、住民生活が平常に戻る迄約一週間を要し、地域経済総被害推定額は40億円を超えた。また、大雪の発生予測については、今後も同程度の降雪がある可能性を示した。

(2) 「自治体の防災に対する備え」岡森清貴氏



岡森清貴氏による話題提供

近年、オホーツク地域は災害が多発しているが、北見市の豪雪災害、2006年(平成18年)8月及び10月の台風並びに低気圧による大雨災害について概説し、この災害に対して住民避難勧告など行政としての対応を含め報告した。また、北見市の防災体制整備等の取り組みについて紹介した。

(3) 「災害時の救護について」尾山とし子氏



尾山とし子氏による話題提供

災害に対して平時からの意識対応・災害時携帯品を常備する必要性等を示し、災害時における救護活動においては、身体的側面だけでなく、精神的側面への働きかけの重要性を解説した。また、地域住民との防災活動において、「地域防災活動推進プログラム」を推進するうえで、災害看護が担う役割の必要性を示した。

(4) 「千島列島沖地震時の津波避難に関するアンケート調査結果」柳原優登氏



柳原優登氏による話題提供

2006年（平成18年）11月に千島列島沖を震源とする地震による津波警報、注意報が発表されたが、北海道開発局では現状及び課題を把握するためにアンケート調査を実施した。セミナーでは、その調査結果よりオホーツク沿岸に発令された津波警報に対する住民の避難行動について解説した。

4. パネルディスカッション要旨



パネルディスカッション  
左手：コーディネータの大島 俊之氏

パネルディスカッションでは災害に強く、豊かな地域を創るための重要な要素である、「災害に対する住民意識の向上」をテーマにコーディネータの大島俊之氏と話題提供者の4名の方をパネラーとして進めた。

始めにコーディネータの大島氏より過去に発生した道東の大規模津波被害例を示し、減災に向け災害

事例を後生に語り継ぐことの必要性を述べ、一方、2006年（平成18年）に釧路で実施した小学生を対象とした「防災探検隊」による防災教育の実施例を示した。また、災害時における企業の経済被害について社会的影響の大きさを解説し、災害対応のリスクマネジメントの必要性を示した。

パネラーの高橋氏からは、雪害に対し町内会での雪害対応策の現況が述べられた。一例として行政が示した間口除雪等の対応策を挙げ、町内会単位での役割および連携した取組の現況が示された。

尾山氏からは、コミュニティ崩壊の現況から、今後の看護教育の重要性を示し、定期的なセミナー・イベント等の開催を例に挙げ住民意識の醸成の必要性を示した。併せて大学が果たすべき地域貢献策の必要性を示した。

岡森氏からは、阪神大震災の事例を挙げ、行政が対応できる住民救済の限界を示し、災害時における「自助」「共助」「公助」を認識し、それぞれの立場で連携・分担のもと、担うべき役割のあり方を述べた。

柳原氏からは、「公助」の限界を示し、地元住民に対して「自助」「共助」を支援するうえでの官の役割を示した。また、役所からの災害情報を住民に正しく伝達するための「コミュニケーション」の重要性を示した。減災に向けワークショップ等の取組については、そのファシリティー役として、「技術士」の役割の必要性を示した。

近年、災害が多発傾向にあるにも関わらず住民レベルの連携が進んでいない現状であるが、会場から北見市災害ボランティアの会会長の伊藤弘氏より災害ボランティアネットワークの関係者として講習



会場から高橋 修会長の発言模様

会、「災害に関する住民アンケート調査」等、積極的な活動状況を報告頂いた。

会場から高橋会長より技術士会の防災特別委員会の取組状況等を発言頂いた。また、技術士の全国的社会貢献策について全国大会での討議の展開状況を示され、技術士として社会と繋がりを含めた広域連携づくりのあり方を概説頂いた。

最後にコーディネータの大島氏より、①災害が発生した際の対応手順、②行政がコミュニケーション力を確保し、他団体等との連携強化の必要性、③技術士も平時において災害対応専門委員として参加する社会貢献策の必要性等を示した。



能登繁幸実行委員長の閉会挨拶

## 5. 情報交換会

情報交換会は合同セミナー終了後、同ホテルで約50名が出席して開催された。

はじめに、コーディネータを務められオホーツク技術士会代表幹事でもある大島俊之氏より開会の挨拶が行われ、その後、来賓としてお招きした北海道



情報交換会

開発局網走開発建設部部长鎌田貢次氏より乾杯のご発声を頂き開宴に入った。

各パネラーを交えての意見交換、高橋会長等と名刺交換される方々、酒を楽しみつつ情報交換する方々等、にぎやかな中にも有意義に懇親を深めた。最後に(株)日本技術士会北海道支部副支部長斉藤有司氏より閉会のことばを頂き終了した。



情報交換会

## 6. おわりに

本セミナーでは、オホーツク地域における災害の実状、住民の災害認識・対応状況、及び災害時の「自助」「共助」「公助」の認識の必要性・役割の重要性などについて検討を深めました。

また、災害に対する住民意識の向上を図るためにそれぞれの立場から社会的・地域的・技術的あり方を示して頂きました。更に、災害に強い地域づくりの実現に向け、「技術士の果たすべき社会的役割」が示されました。

最後になりましたが、話題提供等頂きました各講師の皆様には、時節柄お忙しい状況にも関わらず資料作成、ご講演に感謝申し上げます。また、セミナー開催にあたり後援頂いた北海道開発局、北海道、北見市、(株)建設コンサルタンツ協会北海道支部及び関係団体等の皆様には、ご協力に厚くお礼申し上げます。

また、今回の北見市でのセミナー開催に当たり、日本技術士会高橋会長、同北海道支部大島支部長はじめ多くの皆様にご多大のお世話になりましたことを、一同心から感謝申し上げます。